

- ・精神障害者地域移行支援特別対策事業に国が着手した経緯の理解、
 - ・この事業がなぜ必要なのか、日本に特有の精神科医療と保健福祉にまつわる歴史的背景と現状を理解し、精神障害者の人権擁護の観点を理念として据えることの意義の理解、
 - ・この事業においては多様な立場の専門職・非専門職がさまざまなステージで利用者にかかわることから、各立場の役割と連携することの意義や方法の理解、
 - ・利用者の希望を中心に据えた個別支援計画の策定方法やケア会議の持ち方、地域移行推進員の実務の理解、
 - ・この事業の理念と意義、展開方法を理解した上で、自身の所属地域の精神保健福祉事情に照らし、果たすべき役割を再考して実践に結び付けるイメージ作り。
- 以上を主たる獲得目標に据え、研修プログラムは以下に決定した。

1日目

- 10：30～12：00 講義1「精神保健福祉のあり方検討会からの問題提起」
 13：00～14：00 講義2「実践報告～推進員の活動紹介」
 14：15～15：30 演習1「推進員の役割とは？」
 15：40～16：40 全体会 グループ討議の発表

2日目

- 9：30～10：10 講義3「地域移行支援とは」
 10：20～11：10 講義4「地域移行支援におけるそれぞれの役割」
 11：20～12：00 講義5「個別支援の視点」
 13：00～14：20 演習2「推進員の役割を考える～明日からの推進員」
 14：30～15：00 全体会 数グループの発表
 15：00～15：15 まとめ スタッフ一同からの一言
 15：30 終了

（各講義の内容は、第三章を参照）

4. 研修終了後のモニタリング

研修会は平成22年1月16～17日に行い、97名の受講者があった。内訳として約7割が地域移行推進員で、コーディネーター・行政担当者・その他が各1割程度ずつとなっていた。以下に受講者とスタッフからの所感を概括する。

1）受講者の声（受講者の基本属性やアンケート結果の詳細は（3）研修アンケート報告を参照）

全体の8割以上が「満足」「まあ満足」と回答しており、「やや不満」は4%、「不満」と回答した者はいなかったことから、全体として受講者ニーズに見合った研修内容であったと言える。各プログラムに関する感想には多少の高低があるが、いずれも「よかった」「まあよかった」を合わせると8割を超えており、結果として全体の満足度につながっているものと考えられる。

① 全体を通しての自由意見の中から、今後の研修企画への要望を抽出すると、以下のようなものがある。

- ・もっともっと他県の状況を聞き参考にしたい。
- ・地域の受け入れに困難が多い対象者の、地域移行に成功した事例報告会を開催していただけると有り難い。
- ・医師や看護師も交えた研修があれば、連携体制が作りやすいのではないか。
- ・1日の研修でも良いので、もっとこういった研修会が沢山あると良い。
- ・概論よりも実践の紹介にもう少し力を入れてほしい。

ある程度の実践経験のある受講者は、新たな知見を得ようと参加していることから、実践報告への要望が高くなると考えられる。一方、「今から始めなければならない」という受講者にとっても、すぐに取り入れられるような「マニュアル」的な要素を求める傾向はあると考えられる。

また、この事業は実施する担当者や事業所のみならず、医療機関の多職種の参画が不可欠であることから、こうした関係者も含む開催方法への要望も納得できるものである。

② 一方、今回の研修で特に受講者から有意義だったとされた点は主に以下の内容である。

- ・当事者の方の意見が聞けて良かった。
- ・推進員の立場の他に行政の方々の話も聞いたのは有意義だった。
- ・ケア会議の持ち方や、ケアマネの概念を分かりやすく話され、とても参考になった。
- ・「退院しない」とか、意欲がないと思える対象者にも、その背景に本人なりの理由があるということを感じた。
- ・各地域それぞれ工夫した支援をしていることがわかった。根幹となっている問題点や魅力は同じだと思った。
- ・実践現場での失敗体験等も聞き、勇気をもらえた。
- ・本人が「主役」になっているか？本人を支援者がふり回していないか？等、ハッと気づかされる事や同じような思いをしながら活動していると知り、良かった。
- ・本人の思いに寄り添い、尊重できるよう一つ一つあらためて見つめる必要があると感じた。
- ・普段の業務の中では気付かなかった問題に気付かされた。現場と理想のギャップが大きく、そこをどうすれば埋められるのかということを含後考えていきたい。
- ・あたり前のことを業務の中で見失わないように見つめ直すよい機会となった。

以上のように、立場の異なる者の意見を聞くこと、共感できる意見を聞き安心できること、重要とわかっていても日常業務の中で置き去りにしがちなことの再点検などが、受講の意義として大きいことがわかる。

③ 改善への要望としては、2日間では盛りだくさんに過ぎるということと、各講義の内容に重複する点があることへの不満があげられた。内容の重複は、各講師が重要と理解しているポイントが同じであることを示し、重要であればこそ重複してでも受講者に伝えることは必要であると言えるが、限られた時間の中で濃密な研修を目指すには工夫も必要かもしれない。

2) 講師・演習ファシリテーターの声

全国各地から、土日を活用して参加された受講者ということもあってか、スタッフ側が持った受講者全体に対する印象は「とても熱心な方が多い」ことである。アンケート結果からもわかるように多彩な立場の方々の合同研修であったことから、最大限、全体のニーズに応える上では2日間のプログラムとしては精一杯であったと振り返っている（本研修の実施を終えて、スタッフ数名で座談会を設けた記録を、第四章 座談会「地域移行支援に携わるマンパワーの役割と課題」に記載しているので参照のこと）。

今後の課題として共通に考察したことは、以下の点である。

① 研修機会の拡充

地域事情や所属機関の状況等、要因は多様に考えられるが、研修の機会を得にくい人も少なくないようであり、全国研修以外にも都道府県やブロック単位での研修がまだまだ必要である。人材育成の前に、人材確保もままならない現状で、せっかく研修を受けて経験を積んだ職員も、非常勤や公務員であれば数年単位で入れ替わってしまう背景にも関係していると考えられるが、人材を育てる発想に立つとき、研修機会の拡充は不可欠と言える。

また、講師や演習のファシリテーターも、全国規模の著名人を講師に毎回呼ぶのではなく、意識的に地元の担い手の中で事前打ち合わせをしながら行っていけば、その過程自体も人材育成につながるであろう。

② 実践的な内容の吟味

地域移行推進員の日々の具体的な活動をより詳細に紹介し、合わせてそこで得たエッセンスやアイデアをどのように実践するかをイメージできることや、新たに生まれた連携、困難に遭遇した時のネットワークの活用方法などの実例（自立支援協議会や地域体制整備コーディネーターや職場、地域内のネットワーク等々を活用するなど）を示したり、その必要性を強調したりすることは、もう少し盛り込めると良いだろう。

そのためには、演習の進め方をさらに工夫するとともに、獲得目標を受講者にも明確に示すことや、ファシリテーター相互の事前打ち合わせを綿密に行うことが求められる。また、演習の中で個別支援の模擬事例を提示し、支援計画策定やケア会議の実施などをイメージすることも有用だと思われる。

③ 今後につなげる意識付け

今回の研修でもある程度は行えたと考えられるが、この事業は有期限であっても精神障害者の地域移行に対する支援ニーズは持続する。そのことを再認識するとき、「事業展開」自体が目的になっている現状が受講者の声から垣間見えることは憂慮すべきことである。

本来は、この事業も「手段の一つとして利用する」ものでしかないことを関係者が共有することも、研修における獲得目標として据えるべきと言えよう。そのことによって、「地域移行支援特別対策事業」が終了した後も、全国各地で退院を望む精神障害者の声にならない声が聞き届けられ、精神科病院内外のフォーマル・インフォーマルな関係者が、その支援に各自の立場から主体的に参画できるのである。

したがって、事業実施方法の習得に焦点化し過ぎず、理念としての「精神障害者の地域移行支援」を理解できることが、結果的に末長い実践につながると考えられる。

5. 地域移行推進員研修プログラムの提案

1) 研修に盛り込むべきこと

ここまで述べてきたように、地域移行推進員研修の企画・実施・事後評価を経て、本研修のプログラムとして盛り込むことが望ましい内容を以下に列挙する。

① 事業の背景の再確認

何故、都道府県事業として「退院可能な精神障害者」の地域生活への移行支援に取り組むのか、という大前提を理念的に再確認することにより、事業関係者がその意義を共有した上で、各圏域・各所属機関の特色に基づく支援を展開することについての共通認識の構築を目指す。

なお、日本の精神科医療と保健福祉の歴史的経緯と現状を踏まえることが必要であるとともに、都道府県単位で研修を行う際は、その地域の精神保健福祉の実態についても情報提供されることが望ましい。

② 精神障害者地域移行支援事業の全体像の理解

本事業に従事する様々な立場の関係者の役割や社会資源について理解し、それらの活用方法や連携のあり方を知り、地域移行推進員としての参画の仕方やネットワーク活用方法を理解する。特に、以下のような項目について提示し、受講者が所属する圏域ごとの実情を俯瞰できることを目指す。

- ・これまでの地域移行支援施策の進捗状況
- ・市町村単位の相談支援事業や自立支援協議会の状況
- ・圏域ごとの地域の社会資源の情報（退院可能な精神障害者の地域移行に関する数値目標（障害福祉

計画等)と実態(等)

③ 地域移行推進員の配置方法と役割の提示

都道府県事業担当者より、行政としての本事業に対する考え方と、地域移行推進員の具体的な配置方法(事業所委託・保健所職員・当事者スタッフの登用など)を示す。ここでは、今後の方向性として都道府県が目指している体制と現状を明示し、推進員の役割に関する共通認識を高める。

なお、「ピアサポーター」という位置付けで、精神障害当事者(ピア)が地域移行推進員として事業に携わっている地域や、推進員とともにピアが支援に参画している実態が各地の報告によって示されている。今後の展開においては、この「支援者(ピア)」を事業のどこに位置付けるのかを明確にしていくことも重要と言える。

④ 地域移行推進員の具体的な実務の理解

利用者の希望に基づく支援になるようにかかわるための、支援者として持つべき視点を理解し、利用者主体のケアマネジメントの方法を学ぶ。個別支援計画の作成方法や、ケア会議の開き方や進め方などを理解する。知識の提供と合わせて、実際に稼働している地域移行推進員からの実践や、現状と課題などの報告を盛り込む。

上記したように、ピアが地域移行推進員の場合と、利用者を支援する一つの社会資源としてピアに協力を求める場合とでは、支援の展開が異なることから、ここの整理が必要である。

⑤ 演習

地域移行推進員は個別支援を中心に担うためか、利用者との1対1の関係の中で業務が完結してしまい、多職種協働のネットワークを活用できずに不全感を残していることが推測される。また、同一地区に複数配置されていても地域移行推進員相互の情報・意見交換の場が少ない印象もある。そこで、多職種や他地域の関係者と意見・情報交換することも演習のウォーミングアップの意味も含めて設けることが望ましい。

その中で、自身の日常の実践を振り返りながら、地域移行推進員としての役割を自身の言葉で語り、今後の展開へのヒントを得ることを目的とする。利用者主体の支援となっているか、利用者を取り巻く関係者一同とともに支援を展開できているか、地域の社会資源に精通し、それらを活用できているか、などを具体的に考える時間とすることが望ましい。

演習は、職種別に行う意義もあろうが、多様な地域の多様な職種が混在して行うことも、視野を広げ連携・協働体制を構築する上では有意義である。

なお、演習は小人数のグループを編成して行うことから、メンバー構成によっても協議内容には差異が生じる。各グループで話し合われたことを受講者全体で共有する時間を設けることで、より多くの意見に触れる機会となる。

ケア会議や協議会の進行方法を習得することも視野に入れ、演習の進行に参加者一同が協力的であることを求め、必要に応じてファシリテーターを各グループに配置するか、全体の進行管理を担う者を配置し、有意義な演習を提供できるように工夫することが必要である。



2) 講師・スタッフの要件

全国規模の研修会では各地の状況を踏まえ、特に実践報告においては地域事情の異なる複数の実践を紹介することが重要と考えたが、都道府県単位で開催する場合は、各地での実績ある担い手が適当と考えられる。

また、都道府県事業担当者が行政責任に基づくビジョンを明示することと、相談支援事業所等で地域作りを見渡しながら実践している中堅・ベテランが講師を担うことが望ましい。こうした力量のある者が未だ少ない地域においては、他県や全国規模の研修に人員を派遣し、伝達講習を行いながら丁寧に研修企画を立案することも人材育成の端緒となろう。

まとめ

本企画検討委員会は、昨年度の厚労省補助金事業である「地域体制整備コーディネーター養成研修プログラム開発事業」（社団法人日本精神保健福祉士協会）の主要メンバーおよび、相談支援従事者研修の講師・スタッフで構成され、各所属組織において実際に精神障害者地域移行支援事業にさまざまな立場から参画した経験を有する。また、既に各地での研修運営に携わっていることから、その経験も活用しながら地域移行推進員に特化した研修の企画立案を担った。

しかし、その過程で私たちが到達した結論は、本研修は何ら特別なことを研修するものではないということである。それは、既述したように、精神障害者の地域移行支援が新しい課題ではなく、昭和40年代から指摘されていながら制度の不備が重なり着手されてこなかった事実と、特別な領域で限られた者だけが担うことに限界があるという事実を再認識し、より恒常的な形でこれら取り組みを全国各地で展開させるための方策の検討に他ならないことを再認識したからである。

一方で、精神障害者の「社会復帰支援」を、いわゆるフォーマルな社会資源や制度が無くとも実践してきた関係者が存在するという事実に勇気づけられながら、事業の有無にかかわらず「自分らしい暮らし」を送ることができずにいる人々の自己実現を支援・応援する担い手が一人でも増えることを期待したい。

地域移行推進員・関係スタッフ研修 プログラム

(敬称略)

研修1日目：平成22年1月16日（土）		ページ※
9：30	受付開始	—
10：00	開講式 オリエンテーション	—
10：30	講義Ⅰ（90分） 「精神保健福祉のあり方検討会からの問題提起」 特定非営利活動法人十勝障がい者支援センター理事長 門屋 充郎 (厚労省「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会構成員」)	—
12：00	休憩（10分）	—
13：00	実践報告（60分） 「推進員の活動紹介」 帯広：社会福祉法人慧誠会 帯広生活支援センター 丸瀬 恵 東京：特定非営利活動法人多摩在宅支援センター 円 國重 智宏	92 94
14：00	休憩（15分）	—
14：15	演習Ⅰ（75分） 「推進員の役割とは？」（グループ討議）	99
15：40	全体会（60分） グループ討議の発表	—
16：40	翌日のオリエンテーション（20分）	—
17：00	終 了	—

研修2日目：1月17日（日）		ページ※
9：00	受 付	—
9：30	講義Ⅱ（40分） 「精神障害者の地域移行支援とは」 社団法人日本精神保健福祉士協会常任理事 田村 綾子	68
10：10	休憩（10分）	—
10：20	講義Ⅲ（40分） 「地域移行支援におけるそれぞれの役割」 埼玉葛北障がい者生活支援センターふれんだむ管理者 岩上 洋一	74
11：10	休憩（10分）	—
11：20	講義Ⅳ（40分） 「個別支援の視点」 かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク 相馬 妙子	81
12：00	昼食・休憩（60分）	—
13：00	演習Ⅱ（80分） 「推進員の役割を考える～明日からの推進員」	99
14：30	全体会（30分） 数グループの発表	—
15：00	まとめ	—
15：30	終 了 大変お疲れ様でした。皆様のご活躍を祈ります。	—

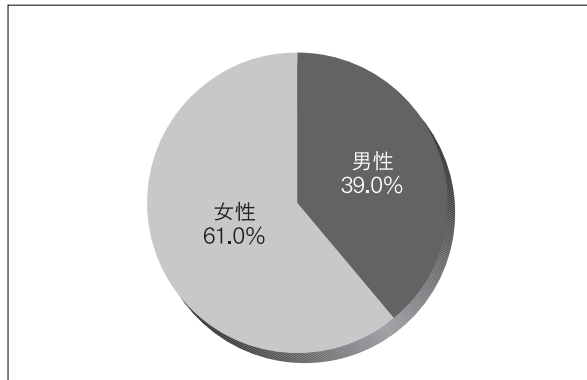
※本書における各講義・プログラムの概要の掲載ページ

地域移行推進員・関係スタッフ研修会 アンケート集計結果

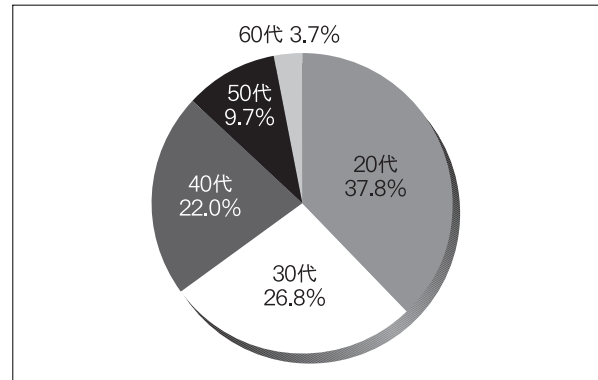
受講者数 97名
 アンケート回答 82名
 回答率 84.5%

I. 受講者の状況について（回答＝82）

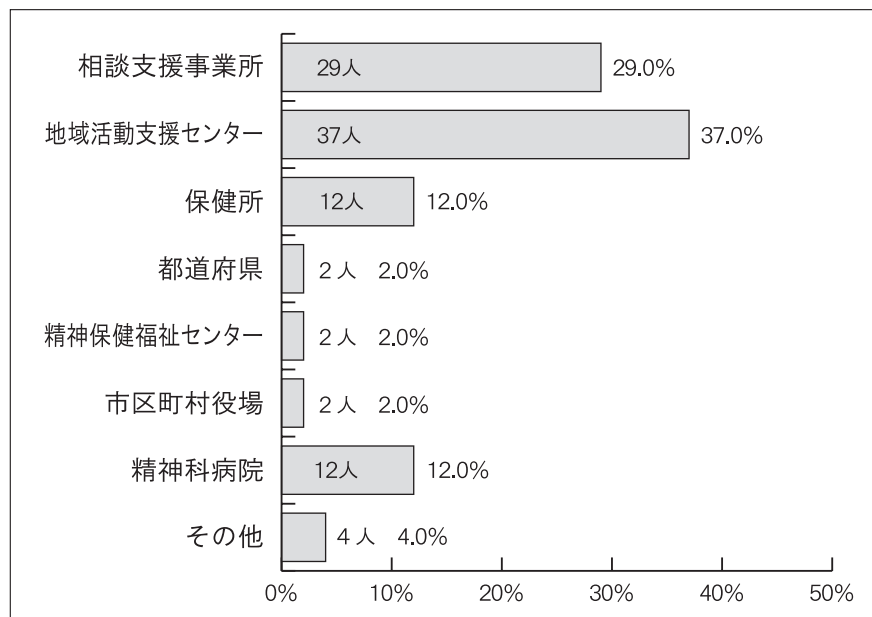
1. 性別



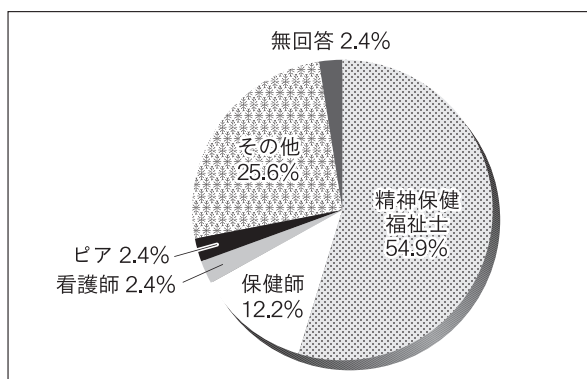
2. 年齢



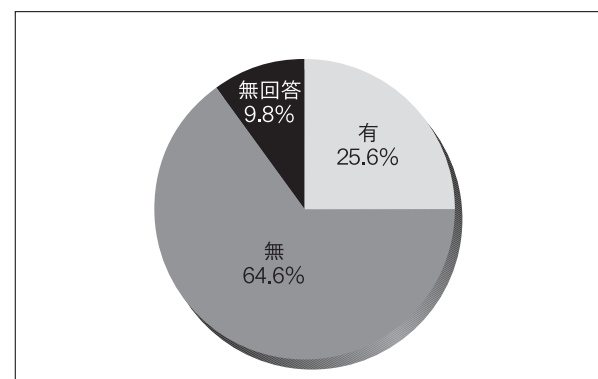
3. 現在、所属する施設・機関（複数回答）



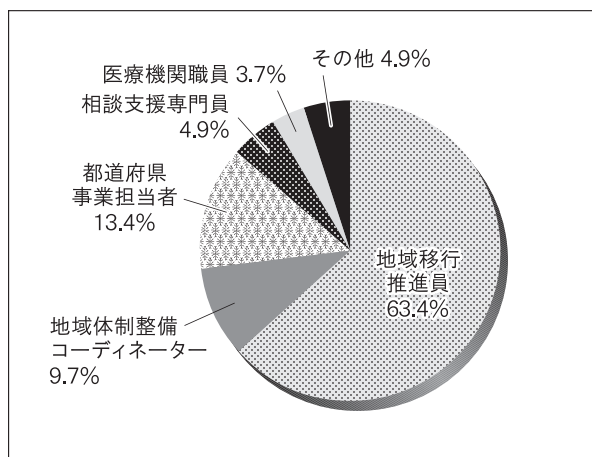
4. 主たる職種



5. 同様のテーマの研修受講歴



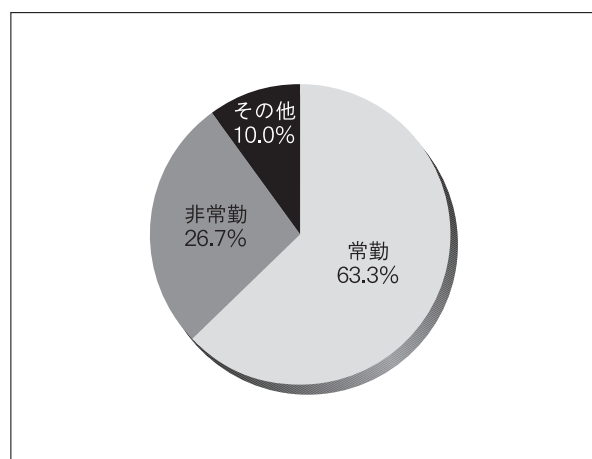
6. 研修の対象となる職種



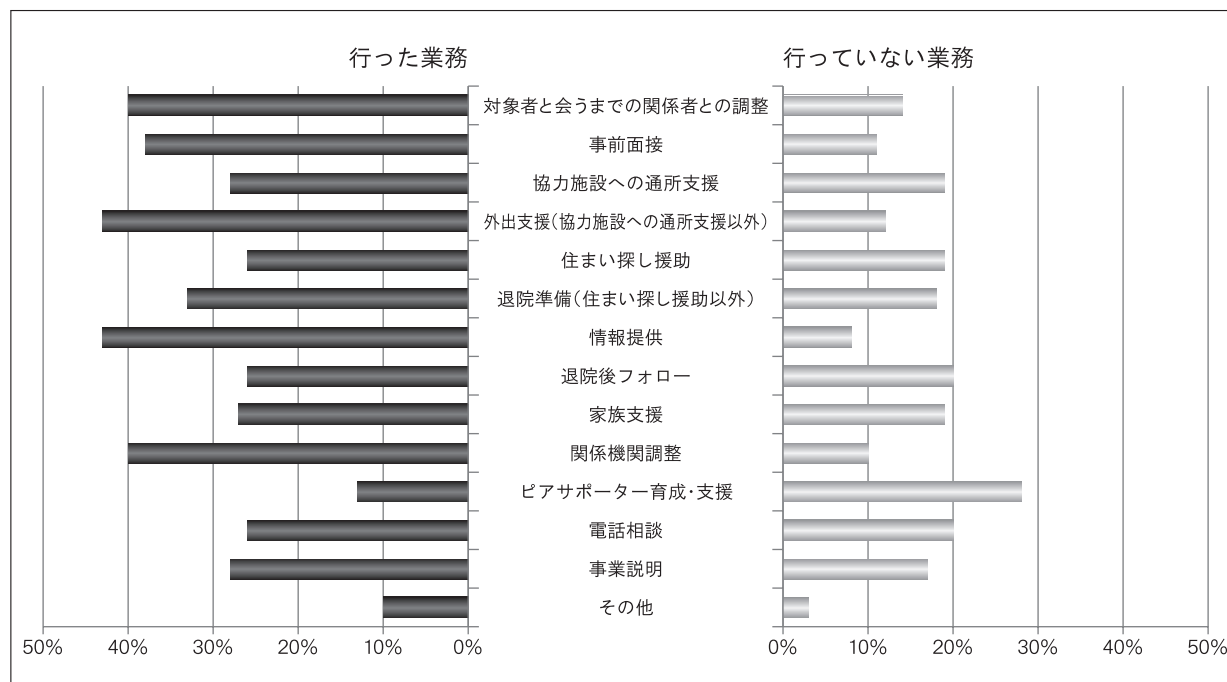
7. 地域移行推進員・地域体制整備コーディネーターの業務等について (回答=60)

(「6. 研修の対象となる職種」で「①地域移行推進員」「②地域体制整備コーディネーター」とした場合のみ回答)

1) 雇用形態

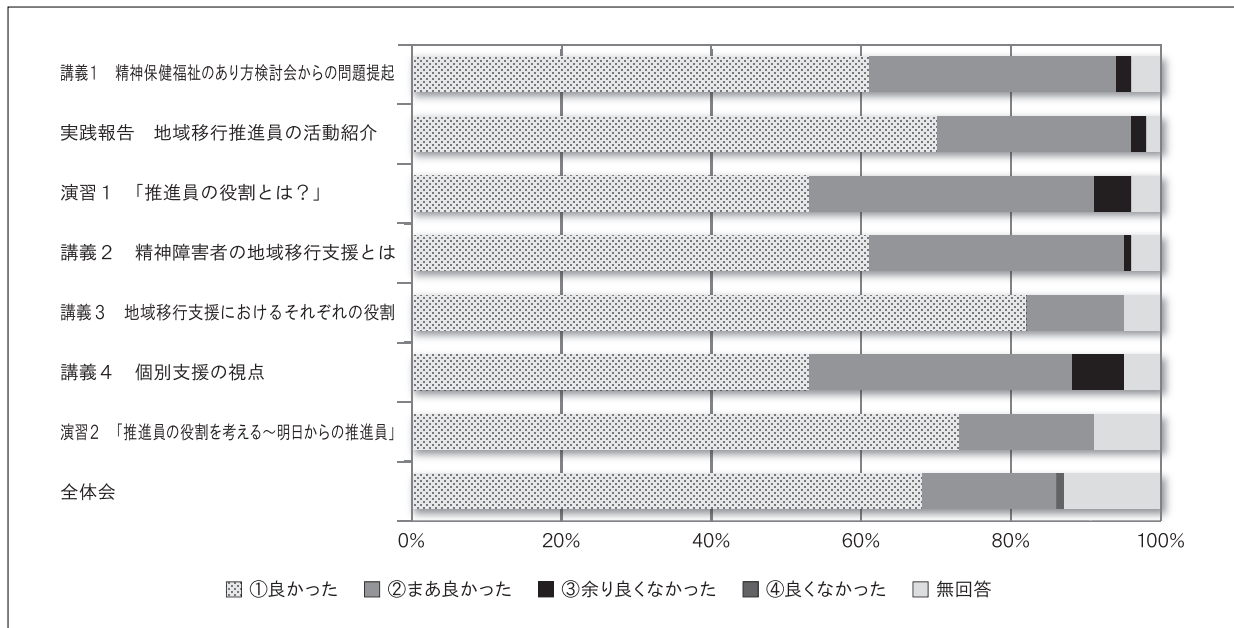


2) 業務等について



Ⅱ. 研修内容について

1) 各プログラムのテキスト・講義内容のわかりやすさや参考になったかどうか



2) 各プログラムについての意見・改善に関する提案（抜粋）

講義Ⅰ「精神保健福祉のあり方検討会からの問題提起」

- ・“社会復帰”という言葉について考えさせられた。“復帰”しないといけないと思われていることや、そもそも“社会”から離れ、社会の一員としての役割や存在を休んでいるわけではないのに、いつも思っていたため、同じように感じていることが嬉しかった。本人の思いによりそい、尊重できるよう一つ一つあらためて見つめる必要があると感じた。
- ・推進員の役割について、信念というか根底となるもの、根幹固めとしても必要な講義であったように思う。
- ・普段の業務の中では気付けなかった問題に気付かされた。問題に気付けたとしても現場と理想のギャップが大きく、そこをどうすれば埋められるのかということは今後考えていきたい。

実践報告「推進員の活動紹介」

- ・北海道はピア活用が充実しているが、他地域では無活用であったりと差があることがわかった。全国区でピアの力が活用されることを望んでいる。
- ・実践現場での失敗体験等も聞かせていただき、勇気をいただきました。
- ・私たちは選択肢を与えるのではなく、体験する機会を与え、本人の中に地域生活が選択肢として芽生えるところを支援すべきなのではないかと考えさせられた。
- ・利用者さんとの関わりが生き生きとした姿として語られていた。
厳しい地域状況の中で、他機関の方と連携をとりながら、粘り強く「移行」に取り組まれたことが印象的。利用者さんの頑張りもすごい。
- ・本人が「主役」になれているか？本人を支援者がふり回していないか？等、ハッと気づかされる事や同じような思いをしながら活動していると知れて良かった。

演習1「推進員の役割とは？」

- ・地域性の違いがありすぎて、情報共有（確認）に偏り、論議そのものに集中できなかった。
- ・グループ発表をとおして、困難と思えることが達成感につながるという視点に気づいた。
- ・全国各地の方々からお話を聞けて、抱える悩みは似たものがあるが、地域によって推進員の所属や職種、立場等が違うことに驚いた。
- ・普段の業務で感じていることを吐き出せてよかった。他地域の方と情報交換できて、有意義な時間になった。

- ・時間配分があまりうまくいかず、議論を深めることが十分にできなかった。
- ・各地域それぞれ工夫をした支援をしていることがわかった。ただもっと特色が出るかと思ったのだが、根幹となっている問題点や魅力は同じなんだと思った。

講義Ⅱ「精神障害者の地域移行支援とは」

- ・実践や調査結果を踏まえた内容で大変わかりやすかった。改めてなぜこの仕事に就いたのか考えるきっかけをいただいた。明日からすぐに活かせる内容で良かった。
- ・あまり自分の中でPSWを持っていることを意識していなかったのが、改めて資格者であることを意識するようになった。
- ・もっとゆっくり聞きたい内容だった。時間が短くて残念。

講義Ⅲ「地域移行支援におけるそれぞれの役割」

- ・テキストがわかりやすい。これからの考え方とか方向性の参考になった。
- ・この事業に費やす業務量はHCとしてもかなりのもの。当センターでは推進員の役割からコーディネーターの役割からすべてを兼ねている。どう動いたら良いかわからないPSWからの依頼でスーパーバイズさせていただいている。まだそういう段階のところもある。
- ・「退院しない」とか、意欲がないと思える対象者にも、その背景にそう言う本人なりの理由があるのだというを感じた。
- ・実際に退院した方の体験談を聞いていて、涙が出そうになった。これからも体験談の紹介を続けてほしい。

講義Ⅳ「個別支援の視点」

- ・今一番の悩み所であるケア会議の持ち方や、ケアマネの概念を分かりやすくお話いただきとても参考になった。
- ・考え方はわかったが、できれば事例をあげて計画を作成してみるなどの実践がほしかった気がする。(作成例だけでも)
- ・「相手の運転する車に乗れるか？」これが私に欠けていると思います。
- ・既に知っている内容(相談支援従事者研修と重複する内容)が多かった。レベル別の研修にすれば、参加者のレベルに合わせて、ピンポイントな内容(重複せずに)の研修になると思う。
- ・現場では、なかなかプロセスのように、モニタリング、インテークなど、不十分な点があり、本人主体の視点を改めて見直さなければいけないと感じた。

演習2「推進員の役割を考える～明日からの推進員」

- ・当事者の方の意見が聞けて良かった。
- ・私たち推進員の立場の他に行政の方々の話も聞けたのは有意義でした。
- ・枠にとらわれず、夢のある話をグループワークで話し合うことができてよかった。対象者とも夢のある話をすることで、退院への希望をもってもらえたらと思った。
- ・推進員として、前日の課題からの対応策を話し合う内に、身近で自身にも出来ることが多くあることに気付かされた。
- ・行政の班はみな初対面で話がしづらかった。でもいろいろ行政の中のこまりごとがきけてよかった。評価についてこの事業はやりづらいなあと思いました。
- ・行政がかかえる課題を共有できてよかった。

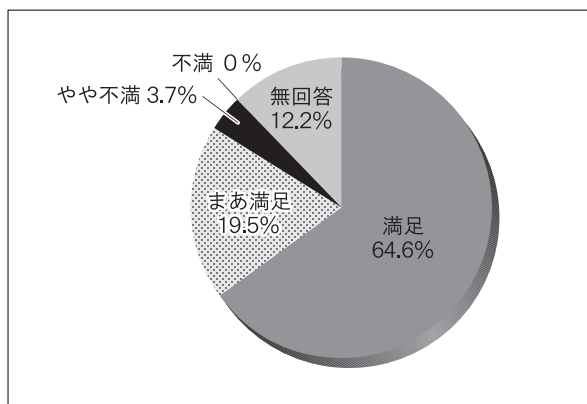
全体会

- ・夢を話すと考えが広がって(しかも楽しく)良い。そこに向けてのまず一步をがんばりたい。
- ・2日間通して発表できないグループが多かった。

3）研修全体を通しての意見・感想（抜粋）

- ・事例をたくさん聞ける点がよかった。推進員だからということでは決してなく、ソーシャルワーカーとしての責任、役割だという点で、あたり前のことだと感じた。そのあたり前のことを業務の中で見失わないように見つめ直すよい機会となった。
- ・1日の研修でも良いので、もっとこういった研修会が沢山あると良いと思う。ちょくちょくあちこちで開催して頂けると良い。
- ・もっともっと他県の状況を聞き参考にしたい。県ごとの報告があってもおもしろい。
- ・事業展開4年目で色んなことが整理されていない状況…。(研修受講し) 原点に戻ってから組み立て直したい。その上でいくつか具体的なヒントが得られた。
- ・現場で動いている人たちの実践報告をもっと聞きたいと思いました。(それぞれの機関・立場から)
- ・自分の仕事をきちんと確認できる機会でした。「自分が何のために推進員をやっているのか」を忘れずに日々仕事をしていきたいと思います。
- ・所謂「心身喪失者等医療観察法」成立以前に重大な他害行為（殺人、傷害、放火等）をおこしてしまった対象者の方々が長期入院されている場合が多く、地域の受け入れが難しい状況にありますので、上述のような対象者の地域移行に成功した事例報告会を開催していただけると有り難いですし、とても参考になりますので、御検討の程宜しくお願い致します。
- ・各地域で活躍されている推進員の方々と一緒に研修会を受けることができ、大変貴重な体験をすることができました。研修案内をいただいた時に「行政職も参加できます」と書いてあり、参加しやすかったです。
- ・懇親会を開いてください。
- ・概論よりも実践の紹介にもう少し力を入れてほしいと思いました。
様々な参加者を対象にすると、どうしても内容の幅が広がってしまうのは仕方ないことだと思います。でも、せめて2日間の中で内容が重複しすぎているのだけは改善をご検討いただきたい。
- ・今後もこのような研修を継続して頂ければと思います。また、医師や看護師も交えた研修があれば、連携体制がつくりやすいのではないかと思います。
- ・やる気のないHPに、多様な面からプッシュしていますが、パワー不足の時など、この研修で得た思いを常に持ち続けていきます。「本人」がどう暮らしたいかを中心に、「地域の生活者」として、共に暮らせるよう支援していきたいです。

Ⅲ. 研修全体の満足度



「地域移行推進員研修会」に係る事前アンケート 調査結果

1. 事前アンケートの目的

平成20年度より「精神障害者地域移行支援特別対策事業」が始まり、地域移行推進員と地域体制整備コーディネーターが配置されている。しかし、先行調査研究等からは、全国各地での地域移行推進員の配置状況は多種多様であり、職種や雇用形態、実務などにも差異があることが推測される。

特定非営利活動法人北海道地域ケアマネジメントネットワークでは、平成21年度「精神障害者等の退院・退所を支援する地域移行推進員等の育成に関する調査研究事業」において、地域移行推進員に関する研修会（以下、「本研修会」）を、平成22年1月16日（土）～17日（日）に東京都内で開催することとなった。

本研修会の開催にあたり、研修の開催に関する事前情報として、研修受講者像の把握等を目的に、都道府県の事業担当者へ事前アンケート調査を実施した。

2. 事前アンケートの概要

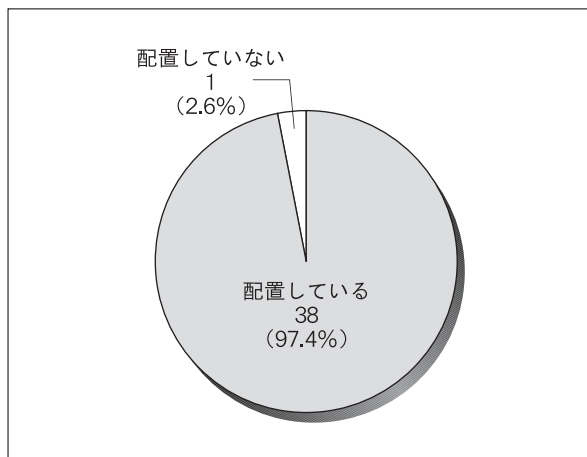
調査名	「地域移行推進員研修会」に係る事前アンケート
調査対象者	全国47都道府県の精神障害者地域移行支援担当者
調査時期	平成21年9月18日～平成21年10月6日（上記期間以降も受付）
調査方法	回答依頼文書および自記式質問紙をメール添付にて厚生労働省精神・障害保健課を通じ調査対象者へ送信し、メールまたはFAXにより回収。
回収状況	39都道府県より回答
調査項目（抜粋）	地域移行推進員の配置に関する項目 （配置状況／配置の主管先／募集方法／配置人数／主たる所属／雇用形態／主たる職種） 地域移行推進員の養成に関する項目 （都道府県研修実施の有無／平成21年度都道府県研修実施予定） 地域体制整備コーディネーターに関する項目 （事業展開に役立っているか及びその理由）

3. 集計結果

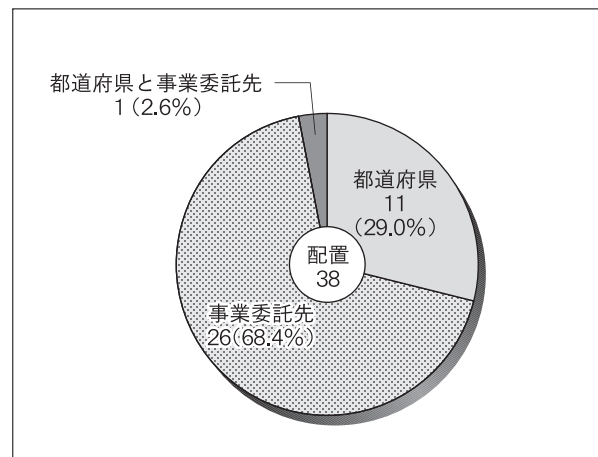
このアンケートは、あくまでも研修の開催に関する事前情報の収集を目的とし、結果の公表を予定していなかったため、各都道府県の詳細な状況ではなく、集計結果の数値を掲載します。

（１）地域移行推進員の配置状況

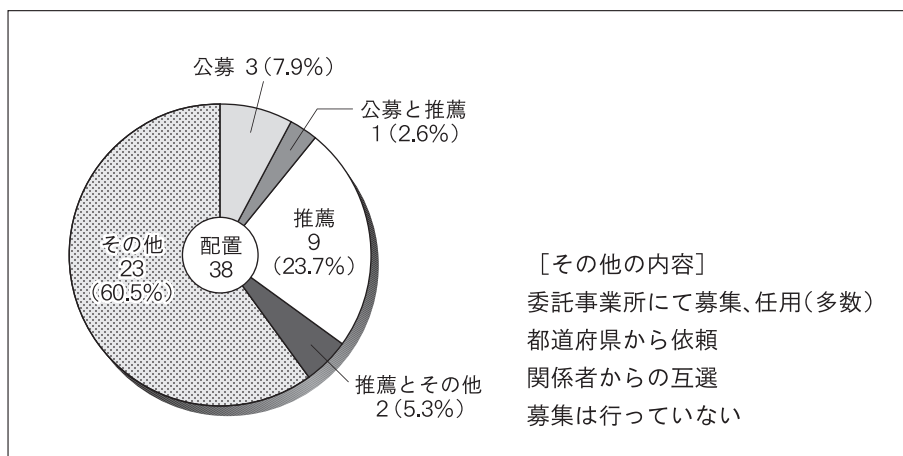
①地域移行推進員の配置 回答＝39



②地域移行推進員の配置の主管 回答＝38



③地域移行推進員の募集方法 回答＝38



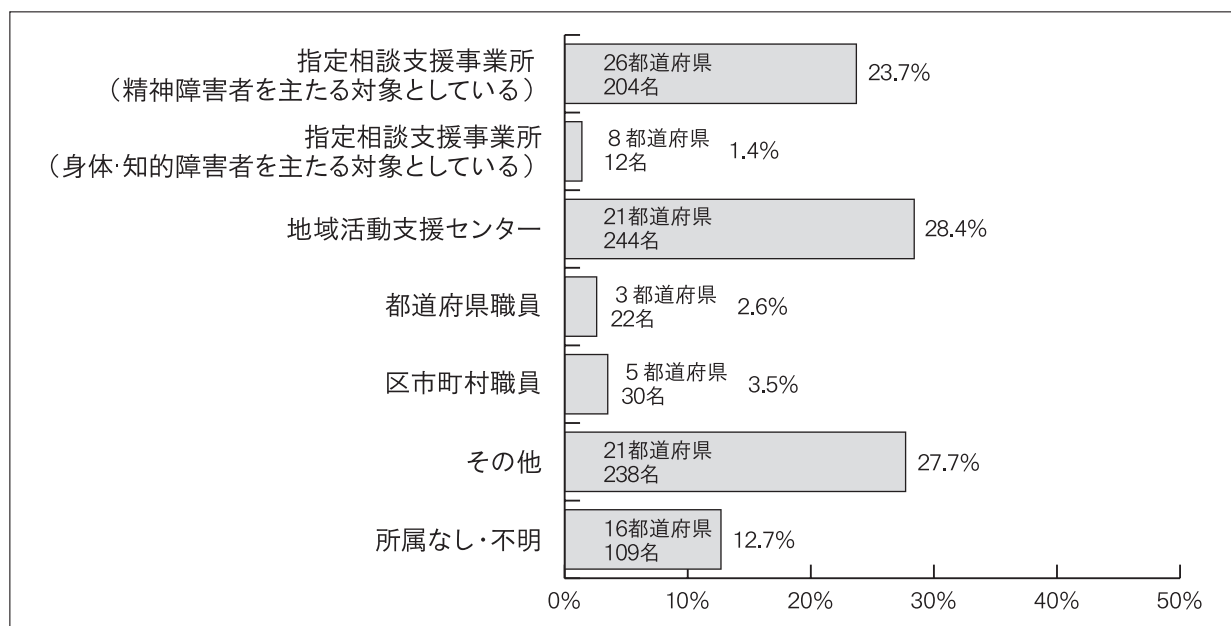
④地域移行推進員の配置人数

配置人数 38都道府県

計 859人

（ 1 県あたりの
 最多人数 176人
 最少数 1人 ）

⑤所属別人数



[その他の内容]

医療機関

訪問家族ステーション

旧精神障害者地域生活支援センター

大学

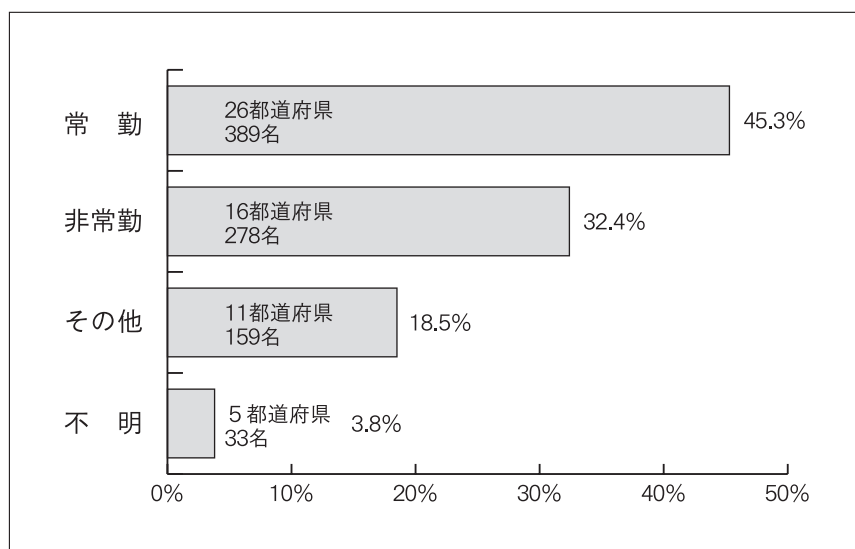
障害福祉サービス事業所（グループホーム、就労継続支援事業所、生活訓練施設等）

社会福祉協議会

社会復帰施設

家族会

⑥雇用形態別人数



[その他の内容]

ボランティア

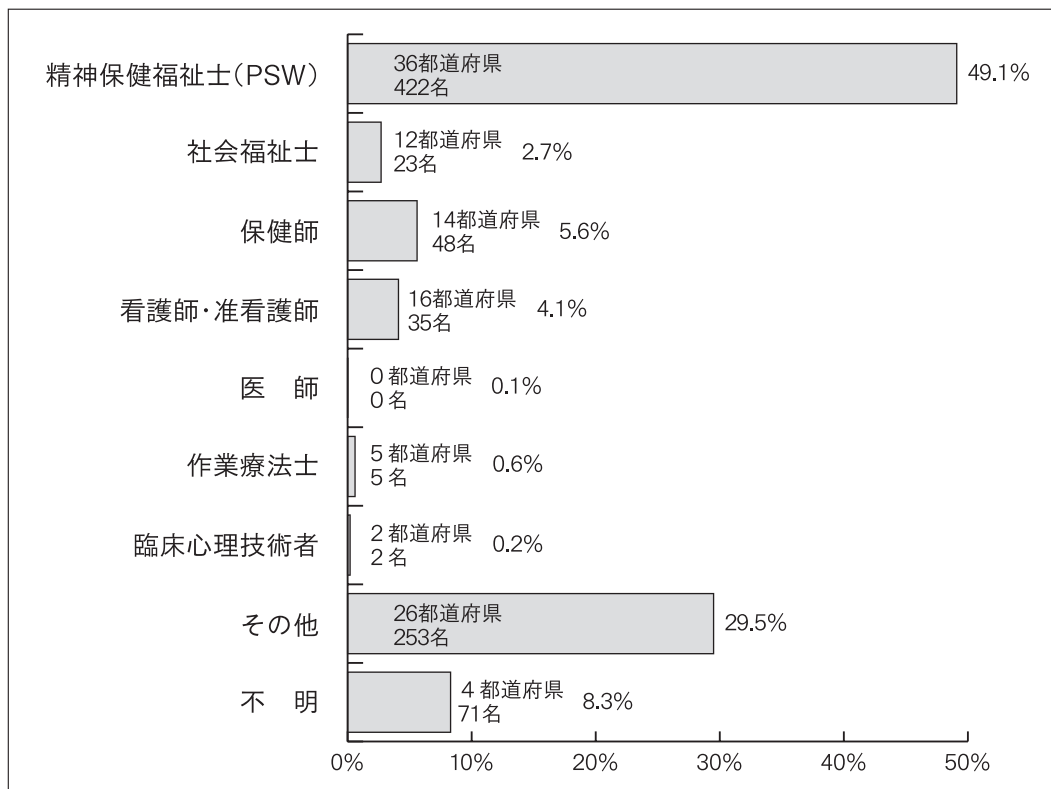
事業委託先の規定による

相談員等との兼務

委託

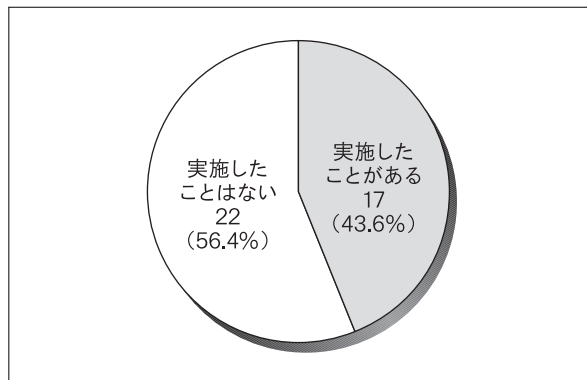
県の保健師業務として従事

⑦主たる職種別人数

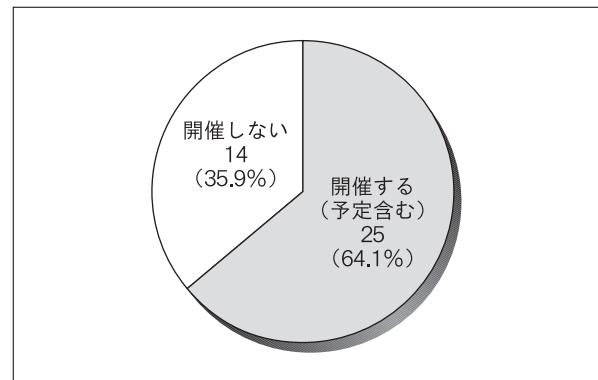


(2) 地域移行推進員の養成（回答＝39）

①都道府県での地域移行推進員養成に関する研修

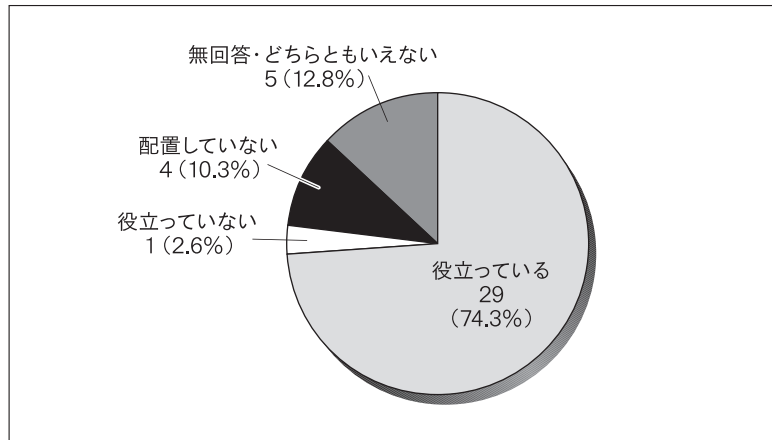


②平成21年度における都道府県研修開催予定



(3) 地域体制整備コーディネーターについて (回答=39)

地域体制整備コーディネーターの配置により、
事業展開に役立っていると感じているか



[役立っていると回答した理由]

- ・事業対象者のいる病院でのスタッフ向け事業説明や各市町村の自立支援協議会での事業の進捗状況説明に出席するなど、事業の周知等に役立っていると感じる。地域移行推進員が孤立してしまわないようにフォローするなどの点でも役に立っていると感じる。
- ・地域移行支援協議会の運営等、関係機関との連携や調整役を担っている。
- ・地域移行推進員の役割（負担）が軽減されたことにより、地域移行推進員は、個別支援を重点的に行うことができるようになった。
- ・病院との関係づくりや、地域との関係者の連携を進める面で、事業展開に役立っていると感じている。
- ・地域移行推進員のみでは難しい地域との調整等を主に担う人材が配置されることで、より円滑な地域移行が期待される。
- ・本県では、事業を実施している相談支援事業所の責任者の方をコーディネーターとしており、事業の取組みが、他の地域生活支援から離れないようにしています。このような方は、地域自立支援協議会の委員であることが多いので、事業成果が市町村事業につながるように意識しています。（具体的に市町村事業に反映された実績は少ないですが、県として、コーディネーターに期待する役割です。）
- ・本県におけるコーディネーターは前年度の地域移行推進員の中から選定しており、地域移行支援会議などの各会議において、地域移行推進員としての経験等を踏まえた助言等を行っているため。
- ・当県では地域体制整備コーディネーターを保健所保健師が担っていることもあり、地域移行推進員への助言や支援などを行うことにより、関係性が深まり、連携がよりスムーズになっていると感じている。
- ・常勤、専従で事業に従事できる職員がいることは、医療機関、行政、事業所の連携構築においては、多大な功績である。しかし、事業所の都合により、人事異動でせっかく育ったコーディネーターがいなくなってしまうこともある。
- ・今年度より、保健所へ精神保健福祉相談員を再配置しており、保健所相談員を地域体制整備コーディネーターとして位置付けている。委託コーディネーターより、直営実施の方が精神科病院等への働きかけが行いやすい。
- ・当県では保健所職員が主にコーディネーターの役割を担っている。保健所職員が、関係機関とのネットワーク形成や事業の普及啓発等に積極的に活動しているため、地域移行推進員の対象者への個別支援がより円滑に取り組まれているものと評価している。
- ・事業に対して必要な意見や助言をいただいている
- ・精神科病院内に入りやすくなった。地域の課題に、具体的に取り組みやすくなった。自立支援協議会に、地域体制整備コーディネーターとして参加できるので、精神障害者の課題について意見しやすくなった。

- ・病院関係・支援機関との連絡調整や自立支援員への助言、事業者の管理など幅広く活用していただいている。様々な役割を重複している中での動きなので一概には言えないが、個別支援を通した、あるいは個別支援以外の動きの中で得られる、啓発等の波及効果が得られやすいため。
- ・関係機関相互の連携が強化された。
- ・地域での位置づけや推進員との役割分担など整理すべき課題はあると思うが、地域での各関係機関との連携・調整など、本道における精神障がい者の地域移行の推進において、中核を担う役割として期待している。
- ・保健所保健師がコーディネーターとなり活動しており、推進員と連絡連携を取りながら事業展開している
- ・保健所にコーディネーターを配置し、地域移行支援事業を実施している。これまで病院だけでは、対応困難だった長期の入院者を保健所が中心となって考えていけるようになった。
- ・病院と地域との繋ぎ役となっている。
- ・各圏域のリーダーとして、対象者の地域移行の推進のため、関係者の調整、地域移行推進員の指導等の役割を担ってくれている。
- ・保健所の職員が実施している。指定支援事業者や複数の圏域にまたがる複数の精神科病院をとりまとめて退院促進を進めていくのは、保健師が適任だと思われるから。
- ・保健所保健師の業務の中でコーディネーター機能を担っているため、本来のコーディネーターの役割は果たせていないと思うが、保健所と委託事業者と協働して事業展開を図る体制がつくられてきているように感じる。
- ・社会資源の開発（特に民間アパート等の確保等の居住サポートや地域自立支援協議会の構成員として参画し、地域移行に関する地域の課題等について協議してもらっている。また、地域移行推進員への助言指導を行ってもらっている。
- ・地域体制整備コーディネーターは、地域において、社会資源を把握のうえ、他障害に係るコーディネーターと共に地域の障害者の地域移行に係る検討を進める立場にある方が担っており、その立場からの助言・地域調整機能が、事業を円滑に進める要素となっていると思われる。
- ・以前から地域、病院との連携やケアマネジメント的な役割は、委託先の事業所の職員が担っていたので、要綱上コーディネーター的な位置づけを明確化できた。5市に委託し、その他の県域を県が実施しているため、地域によって異なります。
- ・県保健福祉環境事務所の保健監（保健所長）をコーディネーターとしており、管内の精神科病院長との事業実施に当たっての協議を行っている。
- ・各病院や福祉団体、関係機関に役割分担が伝わりやすく、相談・伝達・報告の系統が理解されやすい。また、コーディネーターになることでリーダーシップを発揮し、周囲の人達を巻き込みながら事業の進捗が図られている。
- ・事業委託先（民間事業者）からの働きかけに加え、都として精神科病院や区市町村への働きかけができる。

〔役立っていないと回答した理由〕

- ・個々の地域移行推進員の力量で進められている感がある。

〔無回答／どちらともいえないと回答した理由〕

- ・当県では、今年度より事業を実施する予定なので、この設問には回答しかねます。
- ・役立っている：地域移行推進員の活動状況に合わせて、適宜活動のバックアップができています。
地域移行推進員が安心感をもって退院支援に当たれている。
- ・役立っていない：十分に対応されているところと、そうでないところに分かれる。
- ・どちらともいえない。感触としては、コーディネーターの配置により圏域内の事業が細かく行うことができると感じているが、それが明確な数値として表すことが難しいため。
- ・まだわからない
- ・旧退院促進支援員に地域移行推進員および地域体制整備コーディネーターを兼務してもらっているため、もともと役立ってもらっている。

4. 調査票

平成 21 年度障害者保健福祉推進事業補助金事業(障害者自立支援調査研究プロジェクト)
「精神障害者等の退院・退所を支援する地域移行推進員等の育成に関する調査研究事業」

「地域移行推進員研修会」に係る事前アンケート
 ～ 記 入 上 の 注 意 ～

この調査票は、都道府県に送付し、回答をお願いしています。
 精神障害者地域移行支援特別対策事業における「地域移行推進員」の実態等をお尋ねしますので、直近の状況でご回答ください。
 入力の際、行やページのズレに関しましては、修正の必要はございません。

問1 はじめに、本調査票に回答される方の所属、お名前、連絡先をご記入ください。

都 道 府 県 名		
部 課 係		
ご 記 入 者 名		
電 話 連 絡 先		内線
E・M A I L		

問2 あなたの自治体では、地域移行推進員を配置していますか。(1つに○)

1 配置している 2 配置していない → 問6へお進みください

問3 地域移行推進員の配置を主管するのはどちらですか。(1つに○)

1 都道府県 2 事業委託先

問4 地域移行推進員の募集は、どのように行いましたか。(あてはまるものすべてに○)

1 公募 2 推薦 3 その他(具体的に:)

問5 地域移行推進員の人数をご記入ください。(数字を記入)

★配置合計人数: 人

(1) 地域移行推進員の主たる所属別の人数をお答えください。

★の配置合計人数と合計が一致するように、ご記入をお願いします。

① 指定相談支援事業所（精神障害者を主たる対象としている）	人
② 指定相談支援事業所（身体・知的障害者を主たる対象としている）	人
③ 地域活動支援センター	人
④ 都道府県職員	人
⑤ 区市町村職員	人
⑥ その他（ ）	人
⑦ 所属なし・不明	人
合 計	人

(2) 地域移行推進員の雇用形態別の人数をお答えください。

★の配置合計人数と合計が一致するように、ご記入をお願いします。

① 常勤	人
② 非常勤	人
③ その他（ ）	人
④ 不明	人
合 計	人

(3) 地域移行推進員の主たる職種別の人数をお答えください

★の配置合計人数と合計が一致するように、ご記入をお願いします。

① 精神保健福祉士（P S W）	人
② 社会福祉士	人
③ 保健師	人
④ 看護師・准看護師	人
⑤ 医 師	人
⑥ 作業療法士	人
⑦ 臨床心理技術者	人
⑧ その他（ ）	人
⑨ 不 明	人
合 計	人

問6 あなたの自治体では、これまでに地域移行推進員養成に関する研修を実施したことがありますか。(1つに○)

- 1 実施したことがある 2 実施したことはない

問7 あなたの自治体では、平成21年度に本事業に関する地域移行推進員への研修を開催しますか(開催が決定している場合は予定も含めてお答えください)。(1つに○)

- 1 開催する(予定含む) 2 開催しない



☆お願い 差し支え無ければ、研修プログラムを本アンケートのご返信時に添付してください。

問8 平成21年1月16日～17日に東京都内で、地域移行推進員を対象とした研修を実施する予定です。あなたの自治体からは何人くらいの参加希望者が見込まれますか。(目安で結構です)

研修参加の希望者数(見込み) : 人

付問 本研修の実施にあたり、内容等に関するご意見・ご要望がありましたら、推進員の実践における課題なども併せてご自由にご記入ください。

・問9 「地域体制整備コーディネーターの配置」についてお伺いします。
あなたの自治体では、地域体制整備コーディネーターを配置したことにより、事業展開に役立っていると感じますか。所感で構いませんので、理由も合わせてご記入ください。

- 1 役立っている 2 役立っていない 3 配置していない



アンケートは以上です。ご協力、ありがとうございました。